



KAMO Junior High School NEWS



鴨志田中学校
鴨中 PTA

職員室より

鴨志田中学校通信

自分と向き合うこと

副校長 高沢 忠弘

今年度は残すところ最後のひと月になりました。1、2年生は学年末テストを終え、次の学年に向けての準備期間になります。この一年の経験を着実に次のステップにできるようしっかりと振り返りましょう。3年生にとって、この一年は進路に向けて自分と向き合い挑戦した一年でした。3月からは、9年間の義務教育最後の2週間になります。卒業期の特別時間割に入りましたが、この貴重な時間だからこそ学べるものがたくさんあります。目の前にある一つ一つのことに思いを込めて取り組み、様々な方々の思いをしっかりと受けとめて、立派に卒業式を迎えましょう。

さて、色々な問題を抱えながら開催されたオリンピックでしたが、人が真剣に自分と向き合っている瞬間を共有できたことは素晴らしいことだと思います。「勝敗だけではなくその過程が大切である」と常々自分も言ってきましたが、その本当の意味を真に理解しているのは、様々なものを懸けて、本気で取り組んできた人だけなのかもしれないと強く感じました。どの競技のどの選手たちにもそれぞれのエピソードや参加するまでの道のりがあり、それを知れば知るほど応援したい気持ちになりました。結果はそれぞれでしたが、その人の向き合う姿勢に心つき動かされる場面が沢山ありました。中でも素晴らしいと感じたのはスノーボードの平野歩夢選手でした。今までになく難しい「人類史上最高難度のルーティーン」を決めたにもかかわらず、1位に届かない納得のいかないジャッジがありました。それに対する怒りをパワーに変えたという報道がありましたが、平野選手は直後のインタビューの中で次のようなことを語っていました。ジャッジには納得はできなかつたけれど、次はエアの高さをもっと高くし、着地の精度をもっと高めようと考えたと。多くの場合、周りから思うように評価されないと、評価しない相手のせいにしてしまいがちです。でも、それでは自分を超えることはできません。自分の思いや努力が正当に評価されずとも、今の自分に向き合い、さらに上を目指す姿勢こそが自信を生み、新たな高みへとつながるのだと、彼のすがすがしい姿勢から教わりました。また、「報われない努力もあるんだな」と語ったフィギュアスケートの羽生選手の言葉にも考えさせられるものがありました。怪我の危険のある4回転アクセルジャンプに果敢に挑み続け、我々の想像もつかない努力を重ね、周囲からの期待や重圧を背負って臨んだ結果、失敗しました。そんな彼の一言は、誰もが否定できない重みと、悲観ではなくやり切った自分をほめることができる程積み重ねた努力が感じられる一言でした。果敢に挑戦し続けるその姿勢は、挑戦もせずに色々な理由を重ねて逃げてしまうことが多い人々の心に、火をつけたに違いありません。努力したってできっこないとやる前から諦めたり、中途半端な努力しかせず努力は報われないと嘆いたり、言い訳ばかり探したりしては、人生はつまらないものになります。失敗を恐れず、これだけ頑張っても報われないことってあると、やりきった自分自身を心底ほめられるぐらいの挑戦をして、羽生選手のようにすがすがしい人生を歩みたいものです。きっとそこに向かう道のりは自分にとってかけがえのないものとなることでしょう。3年生の皆さん、新たに踏み出すこれからの手本として、悔いのない素晴らしい一日一日を歩んでください。



PTA よいお知らせ

■3年生の保護者の皆様

卒業式当日、お手持ちのネームホルダーを回収させていただきます。ご協力御願いたします。

■標準服・体操服等のリサイクル品を常時募集しております。学校に直接お持ち下さい。ご卒業される3年生の皆様のご協力をお願いいたします。

■毎年3月に発行しているPTA便りにつきましては、今年度は発行中止といたします。

鴨志田中学校 PTA本部役員一同



1年生保健指導 人とのかかわり（交際）について

生徒たちも中学生となり、思春期を迎え異性への関心も高まってきています。このことは人間としての成長を考えるうえで大切な心の変化であります。そこで、この時期に異性に対する心の変化を見つめさせ、互いに相手を思いやって自分を高めていけるような人との関わりについて学びました。

【感想】授業を終えて～

- みんなの意見を出し合って、自分の考えと比べて楽しかった。
- 人に対する思いやりをこれからも深めて行こうと思う。
- 今までこのような授業を受けたことがなかったからまた新しいことを知ることができて良かった
- 色々な交際の仕方についてわかったし、嫌がるような交際はしないようにしたい。
- 付き合い方のよし悪しがわかった
- いくつも自分に当てはまる事があってすごく共感した。

☆2学年 オンライン職業講話☆

2年生では、1月19日（水）オンラインによる職業講話を行いました。昨年に引き続き、職場にうかがって仕事を体験させていただくことは叶いませんでしたが、今回はお話をさせていただく社会人の方々に、あらかじめこれまでの人生の浮き沈みをグラフ化した資料を作っていただき、それをもとにグループで話し合い、講師の方の人生にまで踏み込み、質問を考え、その質問を直接ぶつけさせていただくインタビュー形式での職業講話となりました。その職業講話を終えて、生徒から講師の皆さんへのお礼状を抜粋して、ご紹介いたします。

◇ 2年1組 我妻 椿さん

林さんのお話からは、林さんの農家という仕事と、自然を愛する気持ちがとても伝わってきました。悪天候による失敗が繰り返しありますが、好きだから試行錯誤を続けられていたことや、専門が難しくても農家をあきらめきれない気持ちがあったことなど、林さんの思いがわかる言葉が心に残っています。

◇ 2年2組 中村 睦さん

今回のオンライン職業体験を通して、学べたことは、「仕事をする場所、そこで仕事をする理由」です。私は、東京に会社を設立した方が、お金はかかるが会社を大きくできると思っていました。しかし、村尾さんの話を聞いて、業種によっては自分が好きな場所や働きやすい場所でも良いということがわかりました。

この先、大人になっていく中で、特に常識にとらわれず、柔軟に考えて生活していきたいです。

◇ 2年3組 福田 萌乃さん

今回の体験学習で自分の将来の夢について前向きに考えられるきっかけになりました。今まではうまくいかないことが多く、将来の夢にした向きになっていましたが、先生のように自分の力で良い方向へ連鎖をつくれるように頑張りたいと思います。

